

論文番号 98

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Alcohol, Red Wine and Cardiovascular Disease

アルコール、赤ワインと循環器系疾患

執筆者

Stephanie D. Wollin, Peter J. H. Jones

掲載誌 (番号又は発行年月日)

J. Nutr. 131(5), 1401-1404, 2001

キーワード

循環器系疾患 フェノール成分 赤ワイン アルコール

要旨

赤ワイン及びアルコール飲料の適度な飲用は、循環器系疾患(CVD)に対して効果があるとするこれまでの文献を考察したもの。

アルコール飲料の、種類による CVD に対する予防効果は、赤ワインが一番高く、ビール、蒸留酒の順である。しかし、これらの調査は、食事とともに飲用されたものなのかなどの消費パターンについての影響は考慮されていない。

ここで、赤ワインの CVD の予防効果は、アルコールによる効果とポリフェノールによる効果の両方がある。

アルコールは、血液凝固因子であるフェブリノーゲンの濃度水準を下げる効果と、血液中のコラーゲンによる血小板凝集を抑制させる効果をもつことから、CVD の予防に効果がある。ラットによる血栓病予防の生体実験によれば、アルコール飲料は血栓病を予防するが、赤ワインについては脱アルコールとしても血栓病を防ぐ効果があった。これは、赤ワインについては、アルコール以外の成分も血栓病の予防に効果があることを示す。血栓病の予防効果があることは、CVD の予防ともなる。

赤ワインのポリフェノールの作用により、低比重リポタンパク (LDL、悪玉コレステロールの異名がある) の酸化や脂質の酸化を抑制する効果がある。これら LDL、脂質の酸化は、動脈硬化を進展させるなどして血管をいためたる。LDL、脂質の酸化を抑制することにより CVD の予防ともなる。

このように、赤ワインについてはポリフェノールなどの成分とアルコールの両方の作用により CVD の予防に効果があると理解されているが、ポリフェノールの作用のメカニズムについては複雑かつ多機能な性質をもち、いまだに科学的に簡潔な結論を出せるまでに至っていない。